



Monthly Pediatrics News Letter

第83号

令和6年3月

発行：産業医科大学小児科学教室

作成者：保科隆之（小児科通信係）

<はじめに>

産業医科大学小児科医局員、小児科入局を表明している初期研修医・学生の皆さん、ごころの業務および勉強ご苦労様です。

2月初めに医師国家試験が行われ、卒後の進路で小児科を選んできた皆さんも受験されました。まずはお疲れ様でした。そして、卒業旅行に行かれた方は楽しかったですか？結果はどうか分かりませんが、全員が見事合格することを願っております。3月中にお会いできることがあると思いますので、国家試験の勉強の苦労話や楽しかった卒業旅行の話などをぜひ聞かせてください。

毎月配信しております小児科通信をお送りします。今回も大学で行われたイベントや学会参加予定などをお知らせします。小児科入局を表明していただいた学生の皆さんと当教室に興味を持っていただき見学に来られた学生さんと先生にもお送りしております。提供する情報に興味を持っていただけると嬉しいです。

通信を読んだ感想やご意見・ご要望を小児科通信制作責任者 (hoshina@med.uoeh-u.ac.jp) までお寄せください。

<2月の医局行事>

2月2日 18時～ 令和6年第1回小児科医局説明会

医学部5年生を対象にした医局説明会を開催しました。14名が参加してくれました。医局で福田医局長から教室の概要を説明してもらい、その後、ダイニングで食事会を行いました。食事会はとても楽しい会となりました。クリニカルクラークシップが始まったばかりであり、複数の進路で迷っている方も多いと思いますが、参加してくれた皆さんの多くが将来の進路に小児科を選んでもらえることを願っています。

2月19日 産業医科大学小児科クリニカルカンファレンス

担当は腎臓グループで、斉宮先生、平川先生、煙草谷先生が、「日常診療に潜む小児のAKI」というテーマで発表しました。

2月20日 産業医科大学小児科入局予定の初期研修医近況報告会

初期研修中の小児科入局予定者の近況を聞かせてもらう会をWebで開催しました。初期研修2年目の先生は、3月で初期研修を終え、4月から小児科を専門とした後期研修が始まります。色々と不安なこともあると思いますが、先輩方が優しくかつしっかり指導してくれますので心配しなくても大丈夫で

す。1年目の先生は、引き続き初期研修で様々なことをしっかり経験し、来年の4月に産業医大の研修プログラムで後期研修を行ってくださることを願っています。

2月29日 産業医科大学小児科セミナー

担当は新生児グループで、菅先生、田中先生と当院脳神経外科の長坂先生が、「新生児・乳児における位置的頭蓋変形（頭のゆがみ）に対するヘルメット療法を含む最新の知見 ー脳神経外科と小児科の視点からー」というテーマで発表しました。

<3月の医局行事予定>

3月2日 第524回日本小児科学会福岡地方会

九州大学病院ウェストウイング棟臨床大講堂とWebのハイブリッド開催です。産医大からは、山口先生と煙草谷先生（北九州総合病院の症例）が発表します。

3月4日 19時～ 第17回八幡地区病院小児科合同カンファレンス

場所 産業医科大学大学2号館2階 2208教室

年2回（9月、3月）に八幡地区の小児科診療を行っている病院間で合同カンファレンスを行っています。今回は、「便通異常のある小児の原因（診断）・治療」というテーマで以下の3演題を発表していただきます。多くの先生の参加をお待ちしています。

1. 排便コントロールに難渋したうつ滞性腸炎の3例

JCHO九州病院小児科 大村 隼也 先生

2. 集中治療室での管理を要した重症下痢症の乳児例

北九州市立八幡病院小児科 竹井 文哉 先生

3. 幼児期に Peutz-Jeghers 症候群と診断され、思春期に巨大結腸症を契機に

Hirschsprung 病の合併が判明した1例

産業医科大学小児科 村川 沙織 先生

3月6日 産業医科大学卒業式

小児科入局を決めてくれた5名が卒業されます。今年は久しぶりに大学主催の卒業祝賀会（謝恩会）が開催されますので、会終了後に小児科独自の卒業生を囲む会を開催します。教室員の皆さんはぜひ参加して、卒業生をお祝いしましょう。

3月19日 令和5年度教室送別会

今年度の退局者、3月で産業医大小児科から他施設に異動する先生の送別会を開催します。時間のある先生はぜひ参加してください。

3月28日 18時～ 産業医科大学小児科セミナー

演題名 小児心臓カテーテル治療

ーその症例、カテーテルで治療できるかもー

演者 清水 大輔、眞鍋 舜彦

場所 産業医科大学大学 2 号館 2 階 2208 教室

3 月のセミナーは、清水先生と眞鍋先生に循環器疾患についてお話ししてもらいます。

4 日および 28 日開催のカンファレンスは、会場と Zoom を使った Web 配信のハイブリッド開催です。遠方からも聴講できますので、興味のある方は医局まで連絡してください。視聴方法をお知らせします。

<3・4 月開催予定の学会・研究会>

3 月および 4 月上旬に医局員が参加する予定の学会・研究会をお知らせします。

3 月 2 日 第 524 回 日本小児科学会福岡地方会

(福岡・九州大学病院ウェストウイング棟臨床大講堂)

発表予定者：山口、煙草谷

3 月 3 日 第 29 回九州沖縄腎生検フォーラム (九州大学病院)

参加者：齊宮、平川

上記に興味があり、参加を希望される方および詳細を知りたい方は、小児科医局に電話 (093-691-7254) をいただくか、メール (hoshina@med.uoeh-u.ac.jp) をお送りください。学会参加費を補助することも検討しています。

<論文掲載情報>

当科医局員が筆頭著者もしくは共著者として名前が入っている論文の掲載情報です (1・2 月掲載分)。小児科専門医取得のためには、自身が筆頭著者である論文が必要になります。当教室では、修練医にも積極的に論文作成に携わってもらい、専門医試験の受験資格をクリアできるよう指導しています。また、できるだけ英文雑誌への投稿を勧めています (PubMed に自分の名前が出てくると嬉しいです)。このことは、市中の総合病院ではなかなかできない利点だと思います。論文を作成することで、より理論的な考え方ができるようになります。診療の視点を広げるためにも、論文作成に積極的に取り組みましょう。

1. Taku K, Ogata M, Hoshina T, Maruyama H, Yoshida A, Kusuhara K. Serial changes in B-cell subsets and immunoglobulin G4 levels in paragonimiasis. *Pediatr Int* 2024;

66: e15727.

2. Korematsu S, Fujisawa T, Saito N, Tezuka J, Miura K, Kobayashi I, Miyata I, Kosugi Y, Gohda Y, Koike Y, Suda A, Matsuo A, Sasaki M, Handa Y, Fujiwara M, Ono A, Koizumi S, Oishi T, Tanaka T, Ando Y, Taba N, Tsurinaga Y, Sato T, Kanai R, Yashiro M, Takagi T, Hida S, Harazaki M, Hoshina T, Okada S, Yasutomi M, Nakata S, Muto A, Tanabe S, Ueda Y, Hasegawa S, Kameda M, Tanaka-Taya K, Fujimoto T, Okada K. Suppressed pediatric asthma hospitalizations during the COVID-19 pandemic in Japan, from a national survey. Clin Transl Allergy 2024; 14: e12330.

3. Miyamoto T, Izawa K, Masui S, Yamazaki A, Yamasaki Y, Matsubayashi T, Shiraki M, Ohnishi H, Yasumura J, Tomohiro K, Miyamae T, Matsubara T, Arakawa N, Ishige T, Takizawa T, Shimbo A, Shimizu M, Kimura N, Maeda Y, Maruyama Y, Shigemura T, Furuta J, Sato S, Tanaka H, Izumikawa M, Yamamura M, Hasegawa T, Kaneko H, Nakagishi Y, Nakano N, Iida Y, Nakamura T, Wakiguchi H, Hoshina T, Kawai T, Murakami K, Akizuki S, Morinobu A, Ohmura K, Eguchi K, Sonoda M, Ishimura M, Furuno K, Kashiwado M, Mori M, Kawahata K, Hayama K, Shimoyama K, Sasaki N, Ito T, Umebayashi H, Omori T, Nakamichi S, Dohmoto T, Hasegawa Y, Kawashima H, Watanabe S, Taguchi Y, Nakaseko H, Iwata N, Kohno H, Ando T, Ito Y, Kataoka Y, Saeki T, Kaneko U, Murase A, Hattori S, Nozawa T, Nishimura K, Nakano R, Watanabe M, Yashiro M, Nakamura T, Komai T, Kato K, Honda Y, Hiejima E, Yonezawa A, Bessho K, Okada S, Ohara O, Takita J, Yasumi T, Nishikomori R; Japan CAPS working group. Clinical characteristics of cryopyrin-associated periodic syndrome and long-term real-world efficacy and tolerability of canakinumab in Japan: results of a nationwide survey. Arthritis Rheumatol 2024, in press.

4. 白山理恵, 柏原やすみ. 九州沖縄ブロックの血友病診療連携の取り組み～血友病性関節症における整形外科との連携拡充～. 血栓止血誌 2024, in press.

<おわりに>

小児科通信第 83 号はいかがでしたか。掲載した情報が皆さんの役に立てば嬉しいです。

今回から 2 月の医局説明会に参加してくれた 5 年生の皆さんにも小児科通信を配信しています。毎月の行事や教室の先生の経験談など小児科の現況がよく分かる構成になっています。時間があるときで構いませんので、ぜひ読んでいただき、もし感想があればメール

を送って下さい。お待ちしております!!

私事になりますが、3月末で産業医科大学を退職し、4月から福岡市立こども病院で勤務することになりました。この小児科通信は、私が医局長を務めることになった2017年に配信を開始し、間もなく7年が経とうとしています。今回の小児科通信が、私が作成する最後となります。この通信を配信させてもらった人たちのどのくらいが読んでくれたかは分かりませんが、毎月の教室の状況を把握してくれたり、日々の診療の糧にしている人が一人でもいればこれほど嬉しいことはありません。私は、産業医科大学小児科学教室を離れますが、4月からは守田 弘美 先生と桑村 真美 先生が小児科通信の作成を引き継いでくれます。日々の診療や勉強で忙しいとは思いますが、引き続き、少しでも通信を読んでくれると嬉しいです。

最後にこれまで多くの皆さんの協力で小児科通信を毎月配信できたことに感謝いたします。同じ小児科医として当教室の皆さんが活躍することを影ながら応援しています。

文責：保科 隆之（小児科通信制作係）